

平成28年度 第5回

三重県伊勢志摩サミット推進本部会議

事項書

日時 平成28年9月27日(火)

9:20~9:30

場所 プレゼンテーションルーム

1 伊勢志摩サミット推進局からの報告

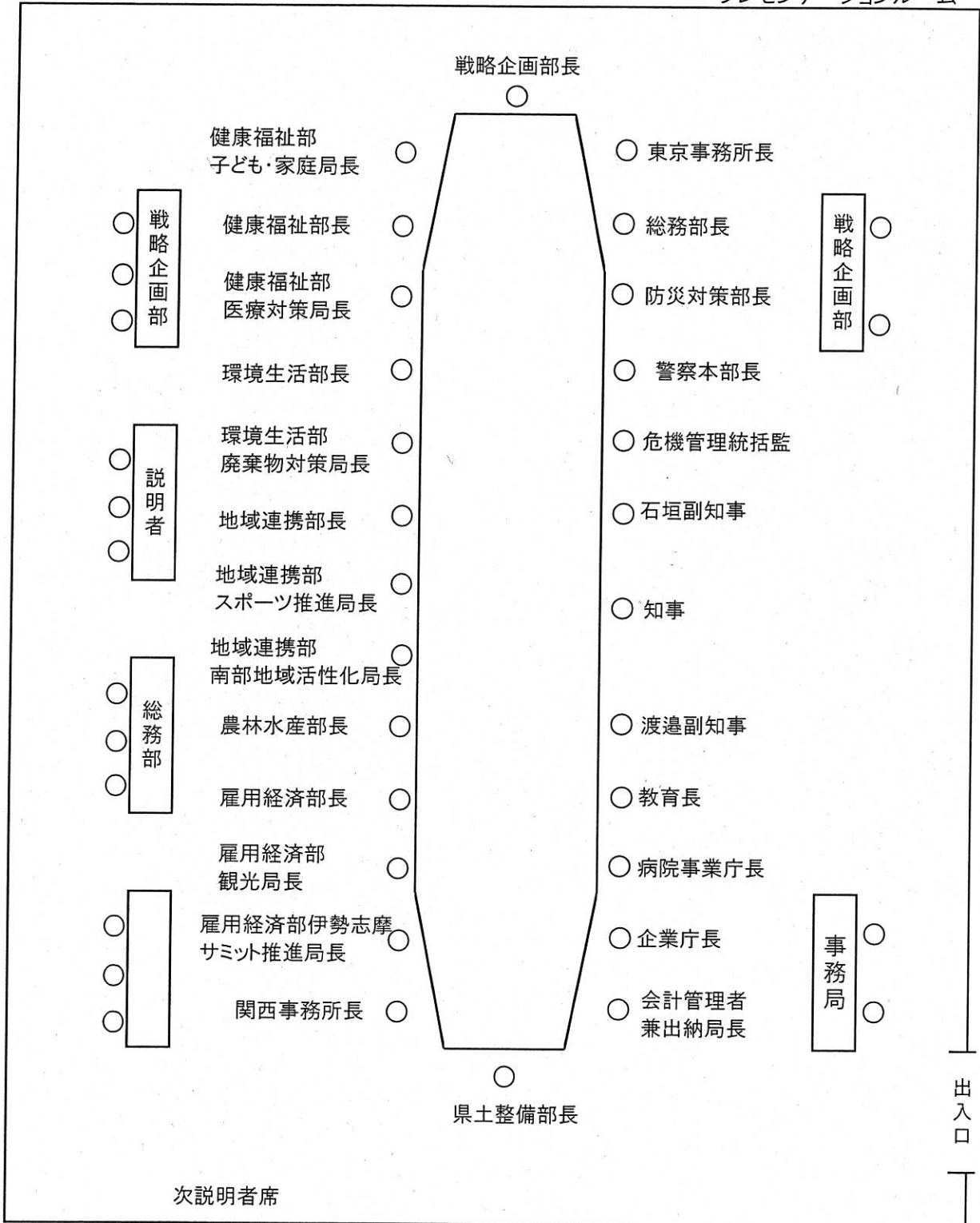
(1) 「2016大学生国際会議 in 三重」について【資料1】

(2) 伊勢志摩サミット三重県民宣言(仮称)について【資料2】



平成28年度第5回伊勢志摩サミット推進本部会議(9月27日)座席表

プレゼンテーションルーム





## 「2016大学生国際会議 in 三重」について

## 1 目的

サミットの開催成果を確かな資産として「明日へつなぐ」ため、県外大学生や留学生が三重に集い、県内大学生や留学生と共に、サミットに関係するテーマ等について討議を行う大学生版のサミットを開催し、サミット開催地・三重県が次世代グローバル人材育成のメッカとなることを目指す。

## 2 概要

## (1) 名称

「2016大学生国際会議 in 三重」

UNICOM (University Students' International Conference in Mie)

## (2) 主催

伊勢志摩サミット三重県民会議

一般社団法人KIP知日派国際人育成プログラム

## (3) 後援

外務省

## (4) 内容

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招聘し、県内大学生、留学生との討議や交流を行った。

①時期 平成28年8月31日(水)～9月3日(土) 3泊4日

②開催場所 伊勢市及び南伊勢町

③行程 別紙1のとおり

④参加者 76名

県外大学生・大学院生 53名 (うち留学生15名)

県内大学生・大学院生 23名 (うち留学生4名)

## ⑤取組内容

## ○討議

テーマⅠ：「～地域資源を活用した地方創生～『ふるさと納税は地域活性化や地域のためになるのか』」

日本の典型的な地方として初めてサミット開催地に選ばれた三重県において地域資源を活用した地方創生に関して討議を行った。

テーマⅡ：「～地場産業とグローバル社会～『貿易の自由化は促進されるべきか』」

南伊勢町の地場産業の現場視察を通じて、地場産業の重要性、グローバル社会との関わり等について討議を行った。

## ○討議に資する現場体験・学習

(伊勢市内視察)

・外宮、せんぐう館、外宮参道(8月31日)

・分散型(9月1日)

Aコース：神宮神田、御塩浜、岩戸の塩工房など

Bコース：神宮徴古館、おほらい町・おかげ横丁など

Cコース：伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館、麻吉旅館など

(南伊勢町一次産業現場視察・分散型) (9月2日)

Aコース：みかん (①ないぜしぜん村、②農事組合法人土実樹)

Bコース：干物 (有限会社山藤)

Cコース：スナップエンドウ (伊勢農協南勢・南島育苗センター)

Dコース：アサリ養殖 (五ヶ所前浜)

Eコース：小麦栽培・獣害対策 (河内地区)

(志摩市視察) (9月3日)

横山展望台

## ○総括

テーマ：三重県における地域活性化の方法とは

4日間の開催日程を総括し、三重県の地域活性化策について討議及び提案を行った。参加者からの提案は次のとおり。

### 【提案内容】

(1) 三重のみかんを日本一にするブランディングとは？

① 三重みかんの甘さをアピールする。修学旅行でミカン農家体験をしてもらう。みかんのキャラクターのアニメを作る。

(2) 三重への若者観光客のリピーターを増やすには？

① 三重の観光案内所でスタンプを集めて特産品に応募できるプログラム (みえ旅パスポート) の強化。例えば、伊勢神宮で手水などを体験するとスタンプを押してもらえるような、体験型のプログラムを増やす。景品として三重の特産品をもれなく渡す。

② SNS の広告を強化して、店員から若者の観光客に話しかけること。ホスピタリティが重要。土地への興味から、人への興味を喚起する。海外向けには口コミを積極的に活用する。

③ 三重の特性を生かしたイベントを企画・開催する。伊勢神宮を生かした修学旅行や、島の脱出ゲームなどのイベント。南伊勢での農業の住み込み等。今回 UNICOM ではバスでの移動が中心であったが、Uber の活用や鉄道の充実を図るべき。今住んでいる人たちの利便性向上にもつながる。

④ 県内からのアプローチとして、三重の魅力を知ることが少ないので、小学校で三重の魅力を知ってもらう研修などを実施して、地元愛を定着させる。外部からのアプローチとして、観光地を結ぶ周遊バスがあると若者が行きやすくなる。関東からも関西からもアクセスしやすいので「あいのりツアー」を実施し、新しい出会いを通して三重を知ってもらう。

⑤ 三重の魅力を一体として打ち出していく必要がある。旅行会社と協力して三重各地をめぐるツアーを企画してはどうか。有名スポットだけでなく、南伊勢町のようなローカルな場所も入れて、観光客自身が行先を決定してもよい。地元民と触れ合える機会のあるツアーにするのもよい。

⑥ 高校生以上のチーム対抗戦の「実はこれぜんぶ三重なんですツアー」を実施する。そうすることで若者のリピーターを増やしたい。三重県の名産などを使った早食い競争など。牛一頭や、旅館優待券など、豪華賞品を用意。優勝したチームには一年間、三重の PR 大使になってもらう。

⑦ 都会の若者に三重のファンになってもらうために、SNS (Instagram 等) を使って呼びかける。大学生協と連携して無料レンタカーを貸し出す。合宿施

設の無料・割引開放。特産品をランキング化して全国にPRする。

- ⑧ 広報活動の充実と高齢化の解決を目指す。グローバルな観点では、難民の受け入れをしてはどうか。国内の観点では、人を呼びこむ方法として、グーグル等検索でのリスティングを強化してはどうか。大学と地域とのつながりが少ないことから、大学の授業に農作業の研修等を取り入れる。
- ⑨ 三重は観光資源が豊富でホスピタリティが充実している。その意味でリピーターになるのは心配する必要はない。三重県をファーストチョイスに入れてもらうことが最も重要。三重を舞台にしたドラマの制作や、女優に活動してもらう。
- ⑩ ビジネスフォーラムを三重県で開催してはどうか。三重県で仕事をしている人、これから事業を立ち上げたい人が、一堂に会して話し合ったり、問題を解決するための場の提供。
- ⑪ 国内外に対して、会社や産業を含めた三重県のデータベースを作る。
- ⑫ 伊勢神宮は外国人に理解しづらいところが多いので工夫が必要。また、外国人は忍者に関心が高いので忍者のPRにも力を入れる。世界の若者に興味をもってもらうためにホームページの外国語対応をしっかりと行う。

(3) その他

UNICOM イベントの商業化を図る。





# 「2016 大学生国際会議 in 三重」 日程

別紙 1

	8月31日(水)	9月1日(木)	9月2日(金)	9月3日(土)
場所	伊勢市(神宮会館、市内)	伊勢市(市内、神宮会館)	南伊勢町(町内、海ぼうず)	志摩市(横山展望台)、 伊勢市(神宮会館)、 《伊賀市(上野公園内)》
午前		6:15~7:45 内宮訪問(朔日詣) 8:45~12:00 伊勢市内視察(分散型) A 神宮神田・御塩浜、岩戸の塩工房 など B 神宮徴古館、おほらい町、おかげ横丁など C 伊勢河崎商人館、伊勢古市参宮街道資料館・麻吉旅館など	8:30~11:00 南伊勢町一次産業現場視察(分散型) A みかん①ないげん村、②土実樹 B 干物(有有限会社山藤) C スナップエドウ(伊勢農協南勢・南島育苗センター) D アサリ垂下養殖(五ヶ所前浜) E 小麦栽培・獣害対策(河内地区) 11:00~12:00 説明者と一緒に昼食	8:20~8:55 横山展望台視察 9:45~11:30 総括 テーマ「三重県における地域活性化の方法とは」 閉会式
午後	13:00~13:30 開会式 13:35~14:00 知事講話 14:30~17:45 伊勢市内視察 外宮・せんげん館、外宮参道	13:00~16:00 討議 I テーマ「地域資源を活用した地方創生」 ～『ふるさと納税は地域活性化や地域のためになるのか』 【移動】 南伊勢町へ	13:30~16:30 討議 II テーマ「地場産業とグローバル社会」 ～『貿易の自由化は促進されるべきか』	《オプショナル》 伊賀市視察 上野公園周辺 (俳聖殿や伊賀流忍者博物館等)
夜	交流行事 神宮会館泊	交流行事(南伊勢町相賀浦区民との交流) 海ぼうず泊	交流行事 海ぼうず泊	



平成28年9月27日

サミット総務課

## 伊勢志摩サミット三重県民宣言（仮称）について

### 1 目的

伊勢志摩サミットでは、オール三重で一丸となって受け入れ準備を進めた結果、一人ひとりの行動が一つの目的に向かうことによって大きな力として発揮され、多くの成果につながりました。サミットの成果を次世代に引き継ぎ、誰もが幸せを実感できる三重へとつなげていくことを目指し、県民が将来にわたってアクティブ・シチズンとしてさらに活躍していただくための「宣言」を取りまとめます。

### 2 宣言の概要

骨子案は、別紙1のとおり。

三重の地が持つポテンシャルやサミットの成果、レガシーから導き出される「親和」、「調和」、「和の文化」及び「平和」の四つの「決意」と、それぞれの「決意」に対応した「行動」で構成しています。

なお、宣言の主体は県民とし、三重県が取りまとめて発信することとします。

### 3 今後の進め方

#### (1) 県民による議論等 10月

「宣言」の取りまとめに向けて、懇話会において、サミットで活躍していただいた方々をはじめとする県民の皆様等に議論に参画していただきます。

その他、懇話会以外にも、障がい者の皆様等からの意見聴取やSNSを活用した意見聴取を行っていきます。

#### (2) 宣言発表 11月頃（開催後半年後を目途）



三重の地(ポテンシャル)

「平和への祈り」、「多様性への寛容や交流」、「自然と人との共生」、「伝統・文化の継承」といった精神性、価値、可能性  
 伝統を守りながらも革新を積み重ねること  
 で進化

サミット開催(成果・レガシー)

・オール三重で一丸となった受入準備により  
 培われた行動力  
 ・各国首脳の神宮訪問をスタートに開催され、  
 多くの成果や、オバマ大統領の広島訪問とい  
 う歴史的瞬間を実現  
 ・サミットの成功により、三重の地が持つ様々  
 な力を改めて認識

新たな三重づくりへ

三重の地が受け継いできたものを抱き、サミットを  
 一過性のものとせず、次世代に引き継ぐことが重要。  
 →県民の皆さんが将来に向かってアクティブ・シチ  
 ズンとしてさらに活躍していただくための宣言を  
 とりまとめ、様々な行動の実践につなげていく。

誰もが幸せを実感  
 できる三重

【宣言】

ポテンシャル・成果・レガシー

郷土への愛着	国際交流	若者
寛容の精神	高齢者	子ども
障がい者	外国人	
多様性		
自然		
環境		
エネルギー		
持続可能		
「聖地」		
次世代への継承		
伝統	革新	
文化(祭り、神宮、食など)	おもてなしの精神	
常若		
おかげさまの精神		
平和		
安全・安心		
県民の活躍	行動	挑戦
		誇り

決意

①親和

寛容の精神から、多様性を認め合い、さまざまな  
 国の人たちとつながっていくとともに、多様性の  
 中にある違いに価値を見出し、誰もが挑戦、活躍  
 できる社会を実現する。

②調和

三重の美しい自然、恵み豊かな環境を次世代に引  
 き継ぐことを自らの使命ととらえるとともに、自  
 然と共生し、環境との共存を図り、知恵と経験を  
 生かして持続可能な社会を実現する。

③和の文化

三重の伝統・文化を次世代へ継承、発展させると  
 ともに、長年にわたり培ってきたおかげさまの精  
 神を一段と磨き、おもてなしをしていく。

④平和

平和を希求するとともに、安全・安心な社会を確  
 立する。

行動

①郷土を愛し、寛容の精神に立ち、多様性に  
 対応するとともに、誰もが挑戦し活躍できる  
 社会の実現に向けて、果敢に取り組む。

②環境に配慮した活動を実践するとともに、  
 環境の保全や技術の革新による発展に取り  
 組む。

③世界に誇りうる多様な文化を継承、発展させ  
 るとともに、来訪者のおもてなしに取り組む。

④世界平和の実現に向けてあらゆる努力を行  
 うとともに、安全・安心な社会の確立に向けて  
 連携して取り組む。

「和」の心=これまで私たちが大切にしてきたものであり、これからも大切にしていきたいもの

